

第19回近畿ブロック研究大会in大阪

趣 旨

2000年に介護保険制度が始まり、もうすぐ20年と区切りの年を迎えます。制度開始当時の社会の姿、今とは大きく異なります。この変化をだれが予想できたでしょうか。超高齢化・少子化のスピードは思いのほか速く、これからも日本の社会は大きく変貌することが予想されております。介護保険制度や社会情勢のこれまでの経過をふり返り、また、現状で変革が予想される日本の社会の姿を共有し、私たち介護支援専門員がこの社会の中で何を為すべきなのか、共有の機会としたいと考えております。

大会概要

1. 実施日時：令和2年3月28日（土）～29日（日）
2. 実施会場：OMM（大阪マーチャンダイズ・マート）ビル
A・B・C・E・E2・F（2階）・OCMAホール（地下1階、3階）
（最寄：大阪メトロ・京阪天満橋駅）
3. 主催：一般社団法人日本介護支援専門員協会
公益社団法人大阪介護支援専門員協会・一般社団法人和歌山県介護支援専門員協会・公益社団法人京都府介護支援専門員会・一般社団法人兵庫県介護支援専門員協会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会・特定非営利活動法人奈良県介護支援専門員協会
4. 後援（予定）：大阪府・大阪市・一般社団法人大阪府医師会・一般社団法人大阪府私立病院協会・一般社団法人大阪府病院協会・一般社団法人大阪府歯科医師会・社会福祉法人大阪府社会福祉協議会・社会福祉法人大阪市社会福祉協議会・一般社団法人大阪府薬剤師会・公益社団法人大阪府看護協会・一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会・公益社団法人大阪社会福祉士会・特定非営利活動法人大阪医療ソーシャルワーカー協会・公益社団法人大阪介護福祉士会・公益社団法人大阪府鍼灸師会・公益社団法人大阪府柔道整復師会・公益社団法人大阪府理学療法士会・一般社団法人大阪府作業療法士会・公益社団法人大阪府歯科衛生士会・公益社団法人大阪府栄養士会・一般社団法人大阪市老人福祉施設連盟・公益社団法人大阪介護老人保健施設協会（順不同）
5. 大会テーマ：介護保険ハタチからのケアマネジメント
～ 地域にひろがれケアマネジャーのチカラ ～
6. 参加費：事前 会員 8,000円 非会員 16,000円
当日 会員 12,000円 非会員 20,000円

7. タイムテーブル

I：大会第1日 3月28日（土）

11：30～	受付開始
12：00～12：30	開会式
12：35～13：35	基調講演 厚生労働省情勢報告
13：40～15：10	記念講演 「未来の地図帳 人口減少で起きること」 演者：河合 雅司氏（作家・ジャーナリスト・ 一般社団法人 人口減少対策総合研究所 理事長）
15：10～15：25	休憩
15：25～18：05	シンポジウム 「これまでのケアマネジメント、これからのケアマネジメント」 ◎コーディネーター：白澤政和（国際医療福祉大学大学院教授） ◎シンポジスト 1. 勝部 麗子（豊中市社会福祉協議会福祉推進室室長） 2. 加來 留（熊本県介護支援専門員協会副会長） 3. 坪根 雅子（日本介護支援専門員協会理事） 4. 三浦 浩史（(株) シャカリハ代表取締役） まとめ
18：30～20：30	懇親会 会場：東天紅（OMMビル20階）

II：大会第2日 3月29日（日）

8：45～	分科会受付開始（QRコードでの参加券読取り）
9：00～11：20	分科会（第1分科会～第6分科会） 第1分科会：「災害支援分野」 第2分科会：「看取り、終末期分野」 第3分科会：「認知症分野」 第4分科会：「施設ケアマネジメント（施設系、居住系）分野」 第5分科会：「教育（主任介護支援専門員の実践）分野」 第6分科会：「地域共生社会分野」
11：20～11：40	休憩
11：40～12：00	一般社団法人日本介護支援専門員協会活動報告
12：00～13：00	全体会・各分科会報告
13：00～13：20	閉会式開始
13：30～	公開講座受付
14：00～16：00	公開講座 映画「徘徊ママリン87歳の夏」1時間17分上映 講演：酒井 章子氏（娘）

■ 基 調 講 演 厚生労働省情勢報告「介護保険最新情報」

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚生労働省老健局振興課

■ 記 念 講 演

「未来の地図帳 人口減少で起きること」

河合雅司 作家・ジャーナリスト（一般社団法人人口減少対策総合研究所 理事長）



1963年、名古屋市生まれ。中央大学卒業。産経新聞社論説委員を経て、一般社団法人「人口減少対策総合研究所」理事長。現在、高知大学客員教授、大正大学客員教授、日本医師会総合政策研究機構客員研究員、産経新聞社客員論説委員のほか、厚労省検討会委員、農水省第三者委員会委員なども務める。

2014年に「ファイザー医学記事賞」の大賞、2018年にNPO法人ひまわりの会「ひまわり褒章」の個人部門賞、2019年に「第80回文藝春秋読者賞」を受賞。

著書『未来の年表』（講談社現代新書）は、『未来の年表2』（同）との累計で76万部（2018年5月末現在）を突破する大ベストセラーとなる。

『未来の年表』シリーズ以外にも、最新刊のベストセラー『未来の地図帳』（講談社現代新書）、『未来の呪縛』（中公新書ラクレ）、『日本の少子化 百年の迷走』（新潮社新潮選書）、『河合雅司の未来の透視図』（ビジネス社）など数多くの著書がある。

■ シンポジウム 「これまでのケアマネジメント、これからのケアマネジメント」

- ・コーディネーター 白澤政和（国際医療福祉大学大学院教授）
- ・シンポジスト講演
 1. 勝部 麗子（豊中市社会福祉協議会福祉推進室室長）
「自分が最後まで過ごしたい場所」
 2. 加來 留（熊本県介護支援専門員協会副会長）
「災害時のケアマネジメント」
 3. 坪根 雅子（日本介護支援専門員協会理事）
「医介連携、看取りのケアマネジメント」
 4. 三浦 浩史（(株)シャカリハ代表取締役）
「これからのケアマネジメント」

映画「徘徊ママリン87歳の夏」(1時間17分)

酒井章子氏 (ママリン様の娘) 上映後講演

本当の決断とは、
状況そのものを引き受けること…。

大阪北浜。大都会のド真ん中に、ちよっと訳ありの母娘が住んでいる。母は認知症、娘は自宅マンションでギャラリーを営む。

昼夜の別なく徘徊する母を見守る娘の姿は、近所の誰もが知っている。

徘徊モードが一息つけば、母娘一緒に居酒屋やバーにも寄る。そんな二人の生活は6年になる。

「老いには勝てぬで、徘徊もショートになってきましたが…」
不条理な生活をユーモアでしのぐ。

認知症と共に暮らすこと…、老いとは…、人間とは…。



● 第1分科会：「災害支援分野」

近年、大規模な災害による被害が頻発しています。災害時には、私たち介護支援専門員は自身及び自身の家族などを守ると同時に、利用者さんを守っていく責務があります。発災初動時にどのように行動するのか、情報を共有する手段は、適切な要援護者支援は、サービス提供の再開及び継続の判断は、被災による新たな要援護者にどう対応するのか、経過とともに災害時のニーズは変化していきます。災害に強いまちづくりをしていくことは、介護支援専門員の役割として地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現に向けた足掛かりにもなるのではないのでしょうか。

平時よりどのように備えをしておけばよいのか、皆さんと一緒に情報を共有し、検討していきたいと思います。

キーワード：災害、災害時要援護者支援、避難行動、安否確認、福祉避難所、避難所、DWAT、多職種連携、災害時アセスメント、災害時ケアプラン、二次被害防止、福祉ニーズ、情報共有の方法、地震、津波、台風、豪雨、水害、福祉支援体制、地域共生社会、災害に強いまちづくりなど

● 第2分科会：「看取り、終末期分野」

地域包括ケアシステムが深化し、地域医療構想の中では病院の機能分化が進み、効率的な医療提供体制を実現するよう求められています。入院期間が短縮されるこの時代に、在宅での看取りがますます増加していきます。私たち介護支援専門員は、「住み慣れた地域で最期まで暮らす」ことを支えることができる知識と技術、連携力を必要とされています。このセッションでは、看取りにおける介護支援専門員の役割について検討します。

キーワード：ACP（アドバンスケアプランニング）、人生会議、ターミナルケア、緩和ケア、独居の方の看取り、施設での看取り、看取り期における医療者との連携、死の概念の捉え方、看取り期の多様なサービス利用、グリーンケア、ターミナルケア加算（居宅）、がん末期・非がん末期の看取り

● 第3分科会：「認知症分野」

「地域包括ケアシステム構築の過程において認知症ケアは現在から未来へと続く大切な課題です。団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、個人を尊重した真の認知症ケアを実現するためには医療、介護、そして地域との連携を密にした更なる取り組みをケアマネジャーが中心となって進めていかなければなりません。日々の実践の中か

ら認知症ケアに関する積極的な意見交換を行い考察を深めます。」

キーワード：団塊世代の認知症・若年性認知症・認知症ライフサポート・認知症初期集中支援チーム、認知症の人の意思決定支援・認知症カフェ・かかりつけ医への対応力研修、認知症サポート医・適切な医療、介護等の提供・BPSDガイドライン、認知症の人と家族を支える など

●第4分科会：「施設ケアマネジメント（施設系、居住系）分野」

施設ケアマネジメントの目的は、①その人らしい暮らしの実現、②利用者本位で過不足のないケアサービスの提供、③利用者の尊厳を支えるアドボカシーの役割、④チームアプローチによる切れ目のないケア、⑤安全なサービス提供とリスク予防、⑥地域や居宅介護等との連携、とされています。

この分科会では、上記の目的を踏まえながら、利用者の状態に応じた住まいや地域包括ケアシステムにおける施設、施設介護支援専門員の役割について考え、その人らしい暮らしの実現に向けたケアマネジメントについて検討したいと思います。

キーワード：介護保険施設、施設介護支援専門員、在宅復帰、施設での看取り、在宅医療介護連携、サービス付き高齢者住宅、状態に応じた多様なサービス、地域包括ケアシステム、チームアプローチ、利用者本位

●第5分科会：「教育（主任介護支援専門員の実践）分野」

地域包括ケアシステムの深化推進における主任介護支援専門員の役割は多岐にわたります。その中でも医療職をはじめとする多職種との連携や人材育成、地域づくりが喫緊の課題だと言われている中で、主任介護支援専門員が事業所内や地域において、その力を発揮することができるしくみも必要だと考えます。

そこで、この分科会では、専門職として、主任介護支援専門員として、求められる役割を果たすためにどのような取組みや仕掛けが必要かを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

キーワード：スーパービジョン、主任介護支援専門員、特定事業所加算、自立支援型ケアマネジメント、地域ケア会議、法令遵守、倫理綱領、自己研鑽、コーチング、ティーチング、事例検討会、三観（学修観・教材観・指導観）、カリキュラム

● 第6分科会：「地域共生社会分野」

今日におけるケアマネジメントには2つの支援軸があります。

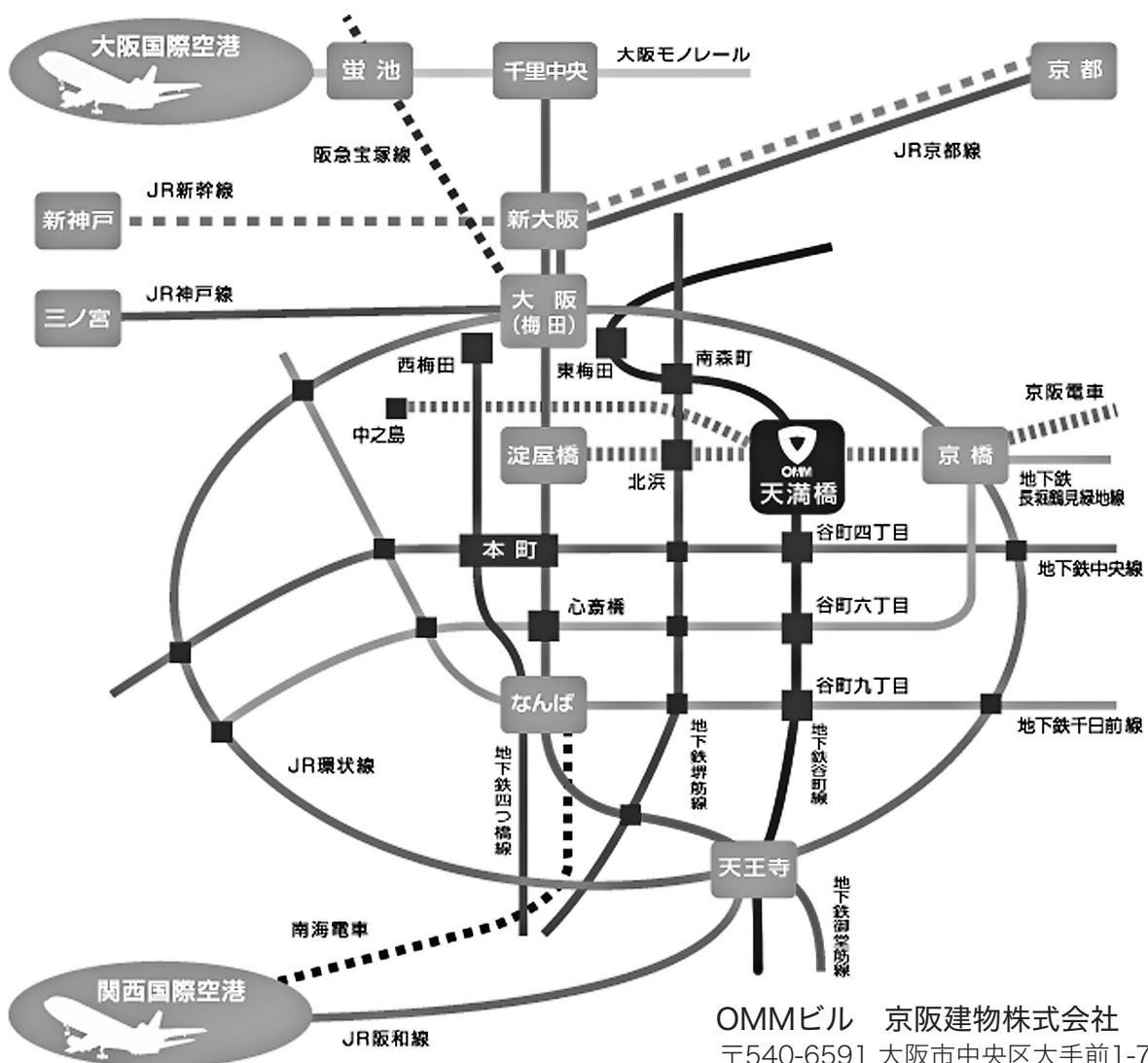
一つは、障がい支援、生活困窮者支援などを含め、かつ地域社会の活性化までも範囲を広げて考えていかなければならないことです。

もう一つは、地域社会の主体者としての被支援者は、孤立を防ぐ手段を賄っておくことです。

このように、自助、共助、公助を含めた総合的な視点から、皆さんと一緒に地域共生社会を考えたいと思います。

キーワード：地域共生、障がい支援、生活困窮者支援、社会貢献、自助、共助、公助など

〈OMMビルアクセス図〉



※公共交通機関にてご来場ください。

一般演題の募集について

大会2日目では、下記の分科会テーマに沿った日頃のケアマネジメント実践における研究の口述発表者を募集致します。

研究発表の意義とは、私たち介護支援専門員が個々のケース、多職種とのネットワーク構築など日頃から行っているケアマネジメントの実践を、介護支援専門員の専門性や社会的な価値を発信し評価を受けるものです。研究発表を通じて互いに活発な議論を交わし、実りある時間としたいと考えております。発表時間は1人8分・質疑応答2分です。活発なディスカッションのできる発表・実践事例発表にしたいと考えていますので、よろしく願いいたします。研究・実践事例発表は令和2年3月29日（日）午前中となります。

1. 研究・実践事例分科会演題募集テーマ

- 第1分科会 災害支援分野
- 第2分科会 看取り、終末期分野
- 第3分科会 認知症分野
- 第4分科会 施設ケアマネジメント（施設系、居住系）分野
- 第5分科会 教育（主任介護支援専門員の実践）分野
- 第6分科会 地域共生社会分野

2. 発表申込み資格

- 1) 発表者は、近畿各府県介護支援専門員協（議）会の会員
- 2) 共同研究者は、本研究大会に参加して発表に同席できる近畿各府県介護支援専門員協（議）会の会員

3. 発表申込み締切

発表申込み締切：令和元年11月28日（木）

4. 発表形式

口述発表のみ

形式内容：スライドデータの映写を活用して研究成果を直接説明する発表形式です。

発表時間：発表 8分 質疑応答 2分

5. 抄録原稿及び当日発表データ作成要領

発表テーマ、都道府県、所属先等の名称、職種・職名等、筆頭演者の氏名をレジユメの頭部につけて作成してください。

- 1) 抄録原稿は原則として、1演題につきA4サイズ2枚までとします。

※ただし、図表が含まれている場合は4枚まで可

6. 申込方法

大会ホームページの大会参加申込画面へ進み、参加者登録画面から専用テンプレートで作成して登録してください。

抄録は、必ず「Microsoft Office Word 2003～2013のバージョン」で作成してください。

一太郎等、他のワープロソフトで作成されたものや手書きの抄録原稿は受付できませんので、ご注意ください。

抄録締切：令和元年11月28日（木） 採択：令和2年1月15日頃

2) 書き方

- 「演題名」は16ポイントのMS明朝体で、最上段の1行目から2行目の中央部を使用して下さい。副題がある場合、改行して下さい。
- 「発表者氏名・所属」は11ポイントのMS明朝体で4行目から5行目の中央部を使用して下さい。
- 共同研究の場合、口頭発表者の前に○印をつけて下さい。
- 「本文」は10.5ポイントのMS明朝体を使用して左揃えで作成、2段組で作成して下さい。
- 「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」及び「文献」などの見出しを必ず付けて下さい。
- 図表及び写真のタイトルは、図・写真が下、表が上で大きさに注意して作成して下さい。
- 「目的」は必ず作業仮説（なぜこの研究を行うのか、どのような事例や手段を用いるのか）を記載、「方法」は内容を具体的に記載して、追試を可能として下さい。「結果」では、調査結果を明確にして、多数例では統計的処理を行って下さい。「考察」では、この研究のどの部分が、どの程度社会に意義があり、新しい発見なのか、他人の考え（文献）と較べてどこが違うのか、述べて下さい。
- 本文中に「スライド番号」を記載しないで下さい。
- 文体は「である調」で作成し、謝辞は不要です。
- 抄録原稿は「Microsoft Office WORD2003・2007・2010・2013」のデータ形式で提出して下さい。

☆下記の様式を抄録の頭部につけて提出ください。

〈様式例〉

発表テーマ □□におけるケアマネジメント実践の効果と課題について

○○府
(府県名)

△△事業所
(所属先等の名称)

介護支援専門員
(職種・職名等)

○大阪 太郎

大阪 花子

大阪 次郎

(共同研究の場合、主たる研究・実践事例発表者を先頭にしてください。
また、発表者の氏名の前に○印)

3) その他の注意事項

- 発表演題については、府県支部や市町村支部が主催する研究大会を除き、他の学会や研究大会等で発表した演題の発表は認めません。
- 業務の内容を逸脱せず、倫理的に正しい内容にしてください。
- 発表に使用したデータがプライバシーを侵害するおそれのあるものについては当事者に説明し、発表について了解を得ていることを抄録中に記述してください。この記述がない研究・実践事例発表は、採択されないことがあります。
- 抄録原稿の記述に際して、個人や地名、団体、学校等の特定につながる記述をしないようにしてください。イニシャルを使用する場合は、実際のイニシャルではなく、A県、B町、Cさんなどと記述してください。この配慮が不十分な発表は採択されないことがあり、また採択された場合であっても修正を求めます。
- 発表者が所属する機関の倫理委員会で承認された研究である場合は、その旨を抄録中に記載してください。
- 査読の結果、変更修正をお願いすることがありますので、ご了承ください。
- 発表していただく分科会は、テーマ、内容、応募者数により変更させていただくこと、また応募多数の場合は、お断りすることもありますので、あらかじめご了承ください。
- 発表にあたっては、大会参加の申込が必要です。大会ホームページの参加申込み画面から参加登録を済ませた後、演題登録へ投稿してください。(参加登録後、後日に改めて演題を登録していただくことも可能です。)
- 発表の可否及び発表に関する詳細については、お申込みいただいたE-mailアドレスにご連絡させていただきます。
- 抄録原稿は、発表の有無にかかわらず返却できませんので、ご了承ください。
- 発表当日、資料の配布は認めません。
- 倫理的配慮に関してはご注意ください。

4) 当日発表データ作成の留意事項

- 大会では発表の際、写真スライド・OHP・VTRは使用できません。スライドデータを映写するためにプロジェクターとPCのみ準備いたします。
- スライドデータはpdf形式で大会事務局へ事前に送信してください。
- スライドデータの枚数は30枚以下に収めてください。
- スライドデータに「スライド番号」を記載しないでください。